

誰かが豊かで安らかな生活望んでいる。結婚や出産の希望をかなえ、子育てが楽しめるまちでありたいと願っている。

しかし、国内の生涯未婚率は上昇を続けている。「男性の年収」と「女性が求める年収」にはギャップがあり、結婚がなかなか実現しないという現実がある。

市は、縁結び事業や婚活支援を通じて、結婚を望む若者を応援している。結婚したい人は多いのに、結婚できない。ミスマッチの解消が必要だ。

子育てにも世代間ギャップという問題がある。世代によつて、子育ての「あたりまえ」が違うため、うまく援助を受けられない保護者が増えているのだ。

子育てに正解はない。育ってきた環境が違えば「あたりまえ」の概念も変わる。

市内には、子供と一緒に情報交換できる施設が多い。一人で悩まず、共感してくれる仲間を探すことが大切だ。

結婚と子育ての現状

夢や希望を持って暮らせる地域

まち

2nd Chapter 「Town」

●第2章



縁結び支援員  
村上アミさん

一関市真柴

profile  
1989年フィリピンから日本に嫁いだ。フィリピンの大学で経営学と日本語、英語、フランス語を学ぶ。洋風居酒屋を経営。

婚活をしっかりサポート  
新たな縁を結びます

縁結び支援員は結婚の相談を受けたり、見合い希望者のマッチングを行ったりします。3年間で16組を引きあわせました。新たな出会いや結婚へのチャンネルが広がります。無料で安心。婚活イベントとあわせて利用してください。



熊谷和也さん  
知美さん

花泉町油島

profile  
和也さんは花泉町生まれ。知美さんは宮城県栗原市生まれ。愛を育み今年9月に結婚。現在、花泉町に新居を建築中。

移住定住支援制度を活用  
夢のマイホーム建築へ

婚約と同日に、花泉町へ移住。市の補助金を受けられると聞き、夢のマイホーム建築に踏み切りました。新居は夫の実家の敷地内。わたしの実家も近いので、何かと安心です。一関のおしゃれなカフェ巡りをしたいです。



佐藤裕夫さん  
麻衣さん

一関市舞川

profile  
裕夫さんは愛知県名古屋市生まれ。2009年、共通の友人を通じて麻衣さんと知り合い、佐藤家に婿入り。

行事にも積極的に参加  
地域に飛び込むことが大事

熱気球の操縦、登山、山スキーや狩猟など、アウトドア好きの僕にとって、一関は理想どおりの場所でした。積極的に地域に飛び込むと生活が楽になります。市には子育て支援の充実を期待しています。

いいまちで、いい恋をしよう  
一関の結婚を考える

ファンスポルト一関  
事業コーディネーター  
阿部温美さん

一生、いっしょ、という幸福

ファンスポルト一関はフットサルを中心とした総合型スポーツクラブです。自分たちでスポーツ環境を整えようを合言葉に、フットサル教室やクラブチーム「VIVALE一関」の運営を行っています。もともと、人と人がつながりあうコミュニティを作ることを目的にしていた団体だったことから、市の「いちのせき結婚活動サポートセンター」の事業を請け負うことになりました。婚活イベントを企画して3年目。やっと、一関らしさが出てきたように思えます。

現在、登録している会員数は350人弱。さまざまな出会いをプロデュースしたかいがあって、会員数は口コミで増加しています。これは、同時に出会いから結婚に至るカップルが少ないことの表れでもあります。やはり難しいのは、結婚への理想が多様化していること。まずは、ゆっくりと「恋をしよう」とアドバイスしています。相手を思いやる気持ちと自分を高める意識があれば、必ずうまくいくとわたしは信じています。



Interview  
キーマンに  
聞く

ファンスポルトでは自分磨きも応援している。相手に好印象を与えて、恋のチャンスをつかもう。12月12日には一関、登米、栗原3市合同のパーティーも開かれる。



Interview  
キーマンに  
聞く

岩淵豊子さん

NPO法人 いちのせき子育てネット  
代表理事

子育てを孤育てにしない

子育て中の母親を孤立させない。それが、いちのせき子育てネット最大の目的です。おやこ広場では、0～3歳児と保護者を対象に、月曜から金曜まで居場所を提供しています。わたしも結婚を機に一関にUターンして、3人の娘を育ててきました。当時は、家事も育児もやって当たり前という風潮。子育ての悩みを共有できる仲間も少なく、辛い思いをしました。そこで、人の輪に自発的に入り、情報を集め、思いや考えを共有できる仲間を作り

ました。すると「子育てに正解はない」や「息抜きも大事」といった言葉を聞くことができ、子供と触れ合うことが一層楽しくなりました。忙しい母親のために理容師を会場に招いたり、縫い物の苦手な母親のためにバッグと一緒に作ったり、ストレスを発散できる環境を作っています。12月12日には「こどもふえすた」と題して、童話劇「注文の多い料理店」を行います。妊娠中の人や年配の人参加しやすい居場所づくりをしています。

おやこ広場は今日も盛況。左から阿久津視由さんと心望ちゃん。三浦晴二郎ちゃんとこずえさん。子育ての悩みを相談や息抜きに利用している。



社会福祉協議会  
佐藤 恵さん

一関市城内

profile  
2015年から一関市ファミリーサポートセンターでアドバイザーを務める。地域の人たちの力を生かした子育てを応援する。

ファミリーサポートセンター  
と子育てサロンで支援

ファミリーサポートは、育児を手伝う会員と、手伝ってもらいたい会員が相互に助け合います。手伝う側の会員数を増やすことが課題です。子育てサロンは一関、花泉、大東、千厩、川崎、東山で地域のボランティアが保護者の孤立を防いでいます。



子育て支援センター  
須藤真栄子さん

一関市山目

profile  
2008年から子育て支援事業に携わる。「ふれあいひろば」は1日20数組の親子が利用。気軽に足を運べる場所づくりを目指している。

子育ての形はいろいろ  
全力で子育てを応援

「孤育て」は百害あって一利なし。子供が小さいうちは、多くの人と触れ合うことが大切。一人で悩まずに相談してください。子育て相談では、臨床心理士、保育士、保健師の専門スタッフが親身に相談に応じています。

佐藤貴之さん 美枝子さん 蓮くん

室根町津谷川

profile  
2012年の結婚を機に貴之さんの実家、室根町にUターン。東京育ちの美枝子さんは車の免許を取得してから佐藤家に嫁いだ。

意外となんとかなる  
前向きな意識で家族円満

子供をもうけるのが夢でした。蓮が生まれて2年になります。不便さは感じますが、車があればどこでも3人で遊びに行けます。それでも不安なのは小児科が遠いこと。地域の人たちから積極的に情報を集めて万が一に備えています。

地域で子育てを応援できるまちに  
一関の子育てを考える